

## 関孝和三百年祭記念事業だより III

真島 秀行

数学通信第 13 号第 1 号 (2008 年 5 月) に書きました後の関孝和三百年祭記念事業についてご報告とご案内をさせていただきます。なお、日本数学会のウェブページに、情報システム運用委員会作成の関孝和三百年祭記念事業のウェブページを開設していただきました。

<http://mathsoc.jp/meeting/seki2008/> 新着情報はそちらをご覧ください。

### 1. 関孝和三百年祭記念数学史国際会議

東京理科大学神楽坂校舎において、8 月 25 日から 31 日の日程で行われました。小松彦三郎先生を委員長とする組織委員会で準備され、海外から 20 名ほど、国内から 50 名ほどの参加がありました。この会議のプロシーディングは英語版で Springer 社より発行されますが、関孝和らの業績を世界に広める役割を果たすはずですが、プログラムにはありませんが、数論の D. Zagier 教授も参加され、29 日 (金) に講演され、その内容もプロシーディングに含まれる予定です。

ご案内が 7 月末と遅くなりましたが、上記の関孝和三百年祭記念事業のウェブページに、関孝和三百年祭記念数学史国際会議の公式ページ <http://i-wasan.jp/seki/> をリンクしてもらってました。この国際会議では参加費が 2 万円必要でした。今でも申し込まれますと、大部の予稿集を送ってもらえ、さらに、来年には出版されるであろう 3 万円程になる予定のプロシーディングを発行後もらうことができます。

### 2. 展示会

上記国際会議期間も含めて、8 月 21 日から 11 月 3 日まで東京理科大学近代科学資料館第二期展示会が開催されています。

<http://www.tus.ac.jp/info/setubi/museum/tenji/index.html>

をご参照ください。また、10 月 25 日から 11 月 24 日まで東北大学附属図書館・宮城県図書館合同企画展「関孝和没後 300 年記念 はっぴいさんぼうー和算の世界へようこそ！」が開催されています。

[http://www.library.tohoku.ac.jp/main/exhibit/sp/2008/kikakuten\\_2008.html](http://www.library.tohoku.ac.jp/main/exhibit/sp/2008/kikakuten_2008.html)

をご参照ください。

11 月 22 日から来年 1 月 12 日まで東京・上野の国立科学博物館で日本の科学者技術者展



シリーズ第 7 回として、「関孝和三百年祭記念 数学 日本のパイオニアたち」が開催されます。チラシを同封いたしますが、関孝和をはじめとする和算家 (吉田光由, 建部賢弘, 松永良弼, 内田五観) および菊池大麓, 高木貞治, 小平邦彦 (敬称略) について展示されます。中央には、数学遊戯場を用意しています。この展示は、「数学に追い風を」キャンペーンを行うために準備してきており、広報用印刷物以外は寄付金で賄われますが、業者見積もりによれば現在高では少々不足することになります。国立科学博物館の常設展招待券 2 枚を差し上げますので、

同封の振込用紙にてご寄付賜れば幸いです。

### 3. 浄輪寺における三百年祭法要、関孝和先生墓地整備

昨年、12月2日に繰り上げて三百年忌法要を浄輪寺において営みましたが、墓地の外柵がいたみ、記念碑が傾いたりしており、整備が必要と思われました。この墓地は東京都指定史跡となっており、東京都所有でその許可と補助（半額負担）の下で整備がおこなわれることになっています。12月6日（土）に追善供養として法要を行います。その日までに記念碑、外柵の後ろと横を整備し、法要後に、外柵の前部分を整備する予定です。整備のためには資金が必要でご寄付を賜れば幸いです。昨年の三百年忌法要は質素に行いましたが、今年の三百年祭法要はお祭りの要素も入れた形式で行う予定です。ご寄付くださりご参列いただける方は、11月25日までに同封の振込用紙の通信欄にその旨、意志表示をお願いいたします。人数を確定の上、午後1時ごろから（必要なら午前中から）、何度か入れ替わって席についていただく形式をとりたいと考えております。法要参列の方には国立科学博物館展示パネルのためのオリジナル原稿集を差し上げる予定です。実際の展示パネルは一般の方々へのためにリライトされています。

### 4. 企画講演会

日本数学会秋季総合分科会第3日の平成20（西暦2008）年9月26日13時から14時までに、竹之内脩先生の「関孝和、人と業績」と題する企画講演がありました。講演予稿には、伝記的なことが殆ど書いてありませんでしたが、開催校の東京工業大学附属図書館からお借りした『関孝和全集』（大阪教育図書、1974年）と『関孝和の人と業績』（研成社、2008年）を何度か示されながら、20分ほどを伝記に当て、40分間くらいでコンパクトに関孝和の代表的な業績について解説されました。

座長挨拶として申しましたが、101年前の1907年4月6日には、日本数学会の前身の東京数学物理学会が式典を行い、川北朝鄰、遠藤利貞の講演がありました。数学通信第11巻第4号で、「川北朝鄰が式辞を読み上げたのみ」と報告しましたが、当時の議事録等を詳しく調査したところ、例会を挟んで講演会があったことが分かりました。この講演記録は、1907年12月5日開催の「本朝数学通俗講談会」の3つの講演記録とともに『本朝数学通俗講演集』（1908年刊行）に掲載されています。ここにお詫びして、訂正いたします。

### 5. 藤岡市シンポジウム

関孝和の縁の地、群馬県藤岡市は、日本数学会では関孝和賞の副賞のブロンズ像を提供してくださっていますが、今回の記念としてミニ企画展「関孝和と算額」を11月3日から21日まで開催し、「地域文化と和算のかかわり」というシンポジウムを11月15日に開催する予定です。

<http://www.city.fujioka.gunma.jp/> をご参照ください。

その他にも把握できていない行事があるかもしれません。記念すべき2008年はもうすぐ終わりますが、これらの事業が今後の数学界のためになれば幸いです。

（まじま ひでゆき／関孝和三百年祭記念事業実行委員会）